

# あさひ燦々

旭労災病院院外広報誌

理念 信頼される医療、誇れる医学

第19号



独立行政法人 労働者健康福祉機構  
旭労災病院 病院長 木村玄次郎

地域の皆様方の御支援のお陰で、いよいよ今年 後半から3年後の完成を目指し、旭労災病院は全面建て替え工事に着手致します。実は、昨年も同様のことをお伝えしましたが、様々な事情で少し遅れてしまいました。基本構想や計画は既に承認され、実施設計が現在進行中です。最早、機構本部で承認を受けねばならないステップはなく、入札が順調に進めば、この予定で完成すると想定されます。

この2-3年、近隣の医療機関からの紹介患者さんが著増し、入院・外来ともに多くの患者さんに利用いただけるようになっていま

す。二次救急に指定された総合病院として、名実ともに殆どの疾患そして重症患者さんにも積極的に対応可能となっております。昨年末、超高速CT装置が新たに導入されました。心筋梗塞の原因となる心臓の冠動脈病変をカテーテル検査をすることなく非侵襲的にスクリーニングできる最新装置です。短時間で被曝量を抑え、かつ鮮明な画像を得られるように進化しています。勿論、人間ドック、ワクチンや予防接種も実施しています。当院は、どなたでも受診いただける市民病院的な公的基幹病院です。厚生労働省管轄下の独立行政



法人 労働者健康福祉機構が設立・運営する病院です。「信頼される医療、誇れる医学」をモットーに安心・安全の医療をスタッフ側も誇れるレベルで、患者さんに納得していただける形で提供することを理念としています。

2年前から市民公開講座を年間2回のペースで継続的に実施し、「糖尿病」や「高血圧」など誰でもが関心の高い領域を中心に理解を深めていただいています。病院まつり“健康チャレンジ”では、血圧や骨密度測定、バランス体操による年齢判定、各種セミナー、相談コーナーなどなどで病院は大賑わいでした。昨年は360名にも登る大勢の方々にお越しいただきました。子供さんも多く、子供用の白衣を羽織って聴診器をお互いの胸に当て心音を聞く風景は特に印象的でした。市民の皆様と病院のスタッフが一緒になって共に和気藹々と楽しんでいただけたと確信します。市民公開講座や病院まつりを通して、病院に親しみを感じ、気軽に立ち寄っていただける、地域に溶け込んだ、病気でなくとも訪れたい新しい病院形態を目指してまいります。

当院の大きな特徴は、50年を超える歴史があり、古いけれども大事に磨き込んで使われており輝いていることです。病院まつりでも感じていただいたように、温かみがあり、「看護師さんは親切で、医師も丁寧に説明してくれる」とのお褒めの言葉をいただいています。これまで職員には、ややもすると何となく“古くて小さい”病院との意識がありま

した。実際には、我々の病院に一步でも足を踏み入れ隅々まで観察していただくと、古いけれども大事に磨き込んで使われ、輝いている姿に驚かれるはずです。職員一丸となり、歴史と共に価値を高めるべく日々励んでおります。

全面建て替えが決定され、平成30年度には新病院をオープンすべく現在、鋭意準備中です。建設が間近に迫る中、病院周辺の整備については市民の皆様のご意見を集約して、尾張旭市が責任を持って速やかに決定していただきたいと思っております。長期的には、病院に隣接する市の遊休地を災害時の避難場所とし、我々の病院が災害拠点病院的な役割を果たせるような計画が重要ではないかと考えます。病児保育施設も病院と連結する形で設置できれば市の大きな財産になります。病院は社会や市民生活の基本的インフラであり、病院建設は市を活性化させる起爆剤でもあるため、“街起こし”に直結しています。是非、このタイミングを逃すことなく市民の皆様と一緒に議論を高め具体的化していただければ幸いです。

地域に密着しながら、世界を見据え社会に貢献することこそ独立行政法人としての使命です。今後共、地域密着型の旭労災病院に対して地域の皆様から暖かい御支援をいただきますよう本年もどうか宜しくお願い申し上げます次第です。

